



The Great Plains Laboratory, Inc.

ラボ番号: F200330-0018-1

患者名:

ID: P200900018

性別: Male

DOB: 11/07/1968 年齢: 51

クライアント: 30494

Comprehensive Stool Analysis / Parasitology x2

細菌培養の結果

良性細菌叢

3+ Bacteroides fragilis group
1+ Bifidobacterium spp.
3+ Escherichia coli
1+ Lactobacillus spp.
2+ Enterococcus spp.
4+ Clostridium spp.
NG = No Growth

境界性細菌叢

3+ Alpha hemolytic strep
3+ Bacillus spp, not cereus or anthracis
3+ Beta strep, group B
2+ Hafnia alvei
1+ Klebsiella oxytoca
3+ Pseudomonas chlororaphis group

悪性細菌叢

3+ Citrobacter freundii complex

細菌学的な情報

予期/有用細菌は、健康でバランスの取れた胃腸管においては、全微生物の中で大部分を占めています。これらの有用細菌は、ビタミン、発酵繊維、消化タンパク質、炭水化物の生成、抗癌物質や抗炎症因子の増殖などを含む、胃腸管における健康保全効果を多く含んでいます。

クロストリジウムは健康なで一般的に良くみられる微生物です。クロストリジウム類は、その他の予期/有用微生物とのバランスの兼ね合いを考えなければなりません。クロストリジウムが欠乏している、あるいはその他の予期/有用微生物と比べて大量に増殖している場合、細菌のバランスが不均衡になっていることを表しています。クロストリジウム・デフィシレの関連疾患が疑われる場合、クロストリジウム総合培養、または毒素クロストリジウム・デフィシレのDNAテストの実施をお勧めします。

共生(不均衡)細菌は通常、宿主の胃腸管に対して病原性細菌でも、有用細菌でもありません。有用細菌のレベルが少ない場合や、共生細菌レベルが増殖しすぎた場合に、不均衡が起こります。共生細菌の中には、増殖レベルが高くなると、腸内毒素症を引き起こす原因となるとという報告もあります。

腸内毒素細菌は既知の病原細菌から成り、胃腸管の疾患を引き起こす可能性があると言われてしています。汚染水や汚染食物の摂取、有用細菌に対して毒性のある化学物質への暴露、抗生物質、経口避妊薬やその他の薬物の使用、食物繊維摂取の不足やストレスレベルが高いことなど、数多くの原因により、腸内毒素細菌が発生します。

イーストの培養

Normal flora (通常真菌叢)

No yeast isolated

Dysbiotic flora (悪性真菌叢)

顕微鏡検査における イースト

判定結果:

None

理想値:

None - Rare

便中のイースト菌の数は、皆無か稀な水準であることが望まれる。顕微鏡による便中イースト菌数の所見が、少数、中等度、或いは多数である場合は、イーストの過剰増殖、生存不能なイーストの存在、或いは食事から流入するイーストの可能性が同定される。

イースト情報

イーストは、通常、皮膚、口腔、そして腸に少量存在することがある。イーストの存在を調べる場合、培養と顕微鏡検査との間に、相違が存在する場合がある。イーストは、便中に一様に分布して生存しているわけではないので、培養で識別されたイースト種が、顕微鏡検査で検出されなかったり、低水準であったりすることがある。逆に、顕微鏡検査では、莫大なる量のイーストが存在している場合でも、生存したイーストが培養されない場合もある。イーストは、腸内の移動を、常に生存した状態で行えるわけではない。生存していない食事由来のイーストも、顕微鏡検査で検出されることがある。微視的に検出されたイーストへの、臨床的介入の検討は、その他の所見や症状の存在を顧みて判断するべきである。

コメント:

検体採取日: 24/03/2020

検体受託日: 30/03/2020

検査完了日: 06/04/2020

アエロモナス、カンピロバクター、プレシオモナス、サルモネラ、シゲラ、ビブリオ、エルシニア、エドワージエラ・タルダについて、個別に検査しましたが、特別な記載がない限り、これらの菌は検出されませんでした。





The Great Plains Laboratory, Inc.

LAB #: F200330-0018-1

PATIENT

ID: P200900018

SEX: Male

DOB: 11/07/1968

AGE: 51

CLIENT#: 30494

Comprehensive Stool Analysis / Parasitology x2

PROTOZOA	PX1	PX2	PX3	INFORMATION
<i>Balantidium coli</i>	None Detected	None Detected		腸内寄生虫は、消化管の異常な住人であり、宿主に損傷を与える可能性があります。腸内に寄生虫が存在することは、一般に、患者が便から口腔を通して微生物に汚染されたことを裏付けます。宿主への損害は寄生負担、移動、閉塞および圧力を含みます。免疫学的炎症、過敏反応および細胞毒性もこれらの疾患の罹患率において大きな役割を果たします。感染量はしばしば病気の重症度に関係し、繰り返しの遭遇は相加的になることがあります。 一般に、寄生虫感染症の急性症状は、粘液および／または血液の有無にかかわらず下痢、発熱、吐き気、または腹痛を伴うことがある。ただし、これらの症状は常に発生するわけではありません。 その結果、寄生虫感染症は診断も根絶もされないかもしれません。治療せずに放置した場合、慢性寄生虫感染は、腸の内層に損傷を与え、病気や疲労の思いも寄らない原因となる可能性があります。慢性寄生虫感染症はまた、腸の透過性の増加、過敏性腸症候群、不規則な腸の動き、吸収不良、胃炎または消化不良、皮膚疾患、関節痛、アレルギー反応、および免疫機能の低下と関連し得ます。 陰性がでた場合でも1日分の便採取のみの結果によるものであれば、それは寄生虫症の可能性を排除しないでしょう。3日間の採取が推奨されます。なお、この検査はシクロスポラ・カイタネンシス（<i>Cyclospora cayetanensis</i>）または微孢子虫症胞子属（<i>Microsporidia</i> spp.）を検出するには設計されていません。
<i>Blastocystis</i> spp.	None Detected	None Detected		
<i>Chilomastix mesnili</i>	None Detected	None Detected		
<i>Dientamoeba fragilis</i>	None Detected	None Detected		
<i>Entamoeba coli</i>	None Detected	None Detected		
<i>Entamoeba histolytica/dispar</i>	None Detected	None Detected		
<i>Entamoeba hartmanni</i>	None Detected	None Detected		
<i>Entamoeba polecki</i>	None Detected	None Detected		
<i>Endolimax nana</i>	None Detected	None Detected		
<i>Enteromonas hominis</i>	None Detected	None Detected		
<i>Giardia duodenalis</i>	None Detected	None Detected		
<i>Iodamoeba butschlii</i>	None Detected	None Detected		
<i>Isospora belli</i> oocysts	None Detected	None Detected		
<i>Pentatrichomonas hominis</i>	None Detected	None Detected		
<i>Retortamonas intestinalis</i>	None Detected	None Detected		
NEMATODES - ROUNDWORMS				
<i>Ascaris lumbricoides</i> eggs	None Detected	None Detected		
<i>Capillaria philippinensis</i> eggs	None Detected	None Detected		
<i>Capillaria hepatica</i> eggs	None Detected	None Detected		
<i>Enterobius vermicularis</i> eggs	None Detected	None Detected		
Hookworm eggs	None Detected	None Detected		
<i>Strongyloides stercoralis</i>	None Detected	None Detected		
<i>Trichuris trichiura</i> eggs	None Detected	None Detected		
CESTODES - TAPEWORMS				
<i>Diphyllobothrium latum</i> eggs	None Detected	None Detected		
<i>Dipylidium caninum</i> eggs	None Detected	None Detected		
<i>Hymenolepis diminuta</i> eggs	None Detected	None Detected		
<i>Hymenolepis nana</i> eggs	None Detected	None Detected		
<i>Taenia</i> eggs	None Detected	None Detected		
TREMATODES - FLUKES				
<i>Clonorchis sinensis</i> eggs	None Detected	None Detected		
<i>Fasciola hepatica</i> / <i>Fasciolopsis buski</i>	None Detected	None Detected		
<i>Paragonimus westermani</i> eggs	None Detected	None Detected		
<i>Heterophyes heterophyes</i>	None Detected	None Detected		
ADDITIONAL ORGANISMS				
<i>Ova or Parasites</i>	None Detected	None Detected		
OTHER MARKERS				
Yeast	None Detected	None Detected		
Red Blood Cells	None Detected	None Detected		
White Blood Cells	None Detected	None Detected		
Charcot-Leyden Crystals	None Detected	None Detected		
Pollen	None Detected	None Detected		
IMMUNOASSAY	RESULT	REFERENCE INTERVAL		
<i>Giardia duodenalis</i>	Neg	Neg		
<i>Cryptosporidium</i>	Neg	Neg		

Comments:

Date Collected: 24/03/2020

Date Received: 30/03/2020

Date Reported: 06/04/2020

Methodology: Microscopy, EIA

Analyzed by ©DOCTOR DATA, INC. • ADDRESS: 3755 Illinois Avenue, St. Charles, IL 60174-2420 • LAB DIR: Erlo Roth, MD • CLIA ID NO: 14D0646470

0002090

791114



The Great Plains Laboratory, Inc.

ラボ番号: F200330-0018-1

患者名:

ID: P200900018

性別: Male

DOB: 11/07/1968 年齢: 51

クライアント: 30494

Comprehensive Stool Analysis / Parasitology x2

消化 / 吸収

	Within	Outside	Reference Range	Elastase (エラスターゼ)検査は、膵臓外分泌不全の診断に利用されます。低濃度は、慢性膵炎や癌との相関があることが報告されています。 Fat Stain (脂肪染色): スダン IV 染色法を利用した、顕微鏡による便中脂肪の検査は、脂肪吸収の程度の評価と脂肪便の検出の定性的検査として用いられています。 Muscle fibers (筋繊維): 便中に見られる筋繊維は、不完全な消化の指標となります。膨脹、鼓脹、膨満感は、筋繊維の増加と関連しています。 Vegetable fibers (食物繊維): 便中の食物繊維の量は、不適切な咀嚼や早食いを示唆しています。 Carbohydrates (炭水化物): 便検体中の還元物質の検出は、炭水化物の消化不良を示唆しています。
Elastase		155	> 200 µg/mL	
Fat Stain	None		None - Mod	
Muscle fibers	None		None - Rare	
Vegetable fibers	Rare		None - Few	
Carbohydrates	Neg		Neg	

炎症

	Within	Outside	Reference Range	ラクトフェリンとカルプロテクチンは、器質的な炎症(IBD)と機能的な症状(IBS)とを鑑別し、IBD に対処するのに頼りになるマーカーである。便中のラクトフェリン濃度とカルプロテクチン濃度を測定することにより、治療の有効性の決定、IBD 寛解の予測を行うことが出来、再発低下の指標にもなり得る。リゾチームは、消化管炎症部位で分泌される酵素であり、IBD 患者で濃度が上昇しているのが確認されている。細菌や寄生虫感染、粘膜刺激、そしてクローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性大腸疾患などがあると、便中に白血球(WBC)や粘液が検出されるようになる。
Lactoferrin	1.6		< 7.3 µg/mL	
Calprotectin	< 10		<= 50 µg/g	
Lysozyme*	97		<= 500 ng/mL	
White Blood Cells	None		None - Rare	
Mucus	Neg		Neg	

免疫

	Within	Outside	Reference Range	Secretory IgA (sIgA) (分泌性 IgA)は、粘膜組織から分泌され、消化器系粘膜を防御する最初にラインを形成し、免疫バリアとして消化管の通常機能にとって重要な役目があります。sIgA 濃度の上昇は、免疫反応の亢進と関連しています。
Secretory IgA*	35.7		30 - 275 mg/dL	

コメント:

検体採取日: 24/03/2020

検体受託日: 30/03/2020

検査完了日: 06/04/2020

*For Research Use Only. Not for use in diagnostic procedures.

Methodology: Elisa, Microscopy, Colormetric, Gas Chromatography, ph Electrode

Analyzed by eDOCTOR'S DATA, INC. • ADDRESS: 3755 Illinois Avenue, St. Charles, IL 60174-2420 • LAB DIR: Erlo Roth, MD • CLIA ID NO: 14D0646470

0001958 791114



Comprehensive Stool Analysis / Parasitology x2

短鎖脂肪酸

	Within	Outside	Reference Range
% Acetate	65		50 - 72 %
% Propionate	21		11 - 25 %
% Butyrate	11		11 - 32 %
% Valerate	2.6		0.8 - 5 %
Butyrate		0.71	0.8 - 4 mg/mL
Total SCFA	6.3		5 - 16 mg/mL

Short chain fatty acids (SCFAs)(短鎖脂肪酸) : SCFA は、胃腸の良性細菌叢による食物繊維の発酵過程の最終産物です。消化器系内の健康の保持と腸内毒素症を予防する重要な役目を担っています。乳酸菌とビフィズス菌が大量に短鎖脂肪酸を生成します。その結果、腸の pH が低下するため細菌やイーストを含む病原体の生息に不適切な腸内環境になります。研究によると、SCFA には胃腸の生理的機能を維持する多くの役割をもっています。SCFA によって炎症が減少、治癒を刺激し、通常細胞の代謝と分化を促進します。Butyrate (酪酸)と Total SCFA (総合 SCFA)は、SCFA 生成全体を評価するのに必須であり、良性細菌叢と食物繊維摂取量を反映しています。

腸の健康マーカー

	Within	Outside	Reference Range
Red Blood Cells	None		None - Rare
pH	6.4		5.8 - 7
Occult Blood	Neg		Neg

Red Blood Cells(RBC) : 便中の赤血球 (RBC)量は、寄生虫、細菌感染、潰瘍性大腸炎のような炎症性大腸炎症状と関係しています。結腸直腸がん、痔ろう、痔は含まれません。Occult blood (潜血) 陽性の潜血では、便中にフリーヘモグロビンが検出され、これは赤血球が溶解したときに放たれます。pH: 便中の pH は腸内の良性細菌叢による食物繊維発酵に大きく依存しています。Yeast (イースト) : 顕微鏡によるイースト陽性反応は、便中にカンジタアルビカンスのような真菌が存在していることを示しています。

肉眼検証

	Appearance	Expected
Color	Brown	Brown
Consistency	Soft	Formed/Soft

Color (色) : 肝臓から消化器系へ流れた胆汁に作用し、細菌によって色素がつくられるため、便の色は通常は茶色です。ある種の条件によって便の色の变化があるとしても、ほとんどは無害であり、食物やサプリメントの色素によって色が変わることがあります。Consistency (硬さ) : 便の 75%は水分からなっています。柔らかく、形の整ったものが望ましいです。硬さは、消化管内の滞留時間や水分摂取量によって変化します。



The Great Plains Laboratory, Inc.

ラボ番号: F200330-0018-1

患者名:

ID: P200900018

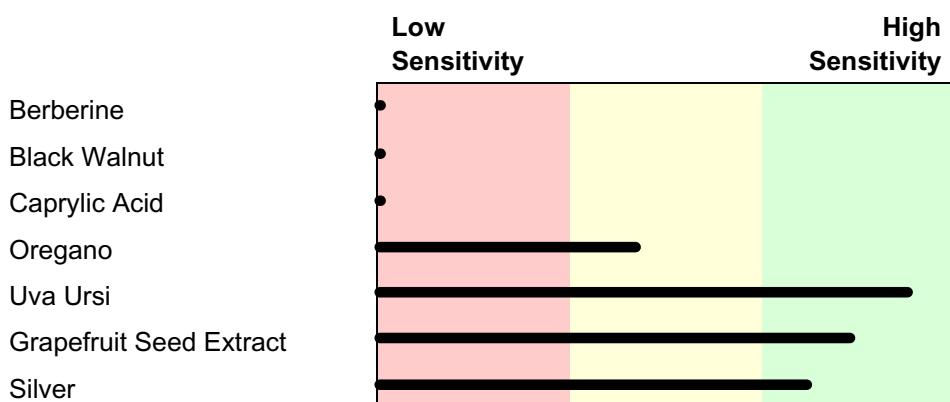
性別: Male

年齢: 51

クライアント: 30494

Bacterial Susceptibilities (細菌の感受性): Citrobacter freundii complex

天然の抗菌物質



Natural antibacterial agents (天然の抗菌物質): 微生物がこれら天然の抗菌物質に試験管内で感受性を示せば、これらは治療に役立つといえるでしょう。検査は標準化された技法を用いて遂行されます。そこでは列挙された抗菌物質で浸された円形のフィルター用紙が用いられます。円板の細菌が成長していない抑制領域の直径に基づいて相対的な効き目がそれぞれの物質に対して報告されます。領域の大きさと抗真菌物質の効き目を関係づけるのに 5000 人以上の観測事例に基づいたデータが用いられています。相対的強度が検査された天然物質に対して定義されます。

規範となる物質

	Resistant	Intermediate	Susceptible
Amoxicillin-Clavulanic Acid	R		
Ampicillin	R		
Cefazolin	R		
Ceftazidime			S
Ciprofloxacin			S
Trimeth-sulfa			S

Susceptible (感受性あり)は、抗菌物質が推奨された投与量の使われた時、細菌による感染を適切に治療でき得るであろうことを示唆しています。

Intermediate (中程度に感受性あり)は、抗菌物質が使われた時、感受性のある細菌より低い割合で反応することを示唆しています。

Resistant (抵抗性あり)は、通常量の抗菌物質では、細菌の成長が抑制されないであろうことを示唆しています。

コメント:

検体採取日: 24/03/2020

検体受託日: 30/03/2020

検査完了日: 06/04/2020

天然の抗菌物質への感受性試験は研究に使用されることのみを目的としています。
診断には用いられません。

v10.11

Analyzed by ©DOCTOR'S DATA, INC. • ADDRESS: 3755 Illinois Avenue, St. Charles, IL 60174-2420 • CLIA ID NO: 14D0646470 • LAB DIR: Erlo Roth, MD

0001738

791114